

認定資格等保有スタッフ

- 日病薬生涯研修修認定
- 認定実務実習指導薬剤師
- 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士
- JADA認定スポーツファーマシスト
- 抗菌化学療法認定薬剤師
- 日本医療薬学会がん専門薬剤師
- 医療情報技術
- 日本医療薬学会指導薬剤師
- 日本医療薬学会認定がん指導薬剤師

設置装置

- 調剤支援システム
(散剤監査システム、水剤監査システム、全自動錠剤分包機)
- 画像監査システム 3台
- 嚴重管理薬管理棚 1台
- 麻薬管理システム 1台
- バイオハザード対策用キャビネット 2台
- クリーンベンチ 2台
- 注射薬混注監査システム 2台
- 注射薬自動払出装置 1台

病院概要

開 院	平成27年6月	設置者／新潟県
運営者	一般財団法人新潟県地域医療推進機構	
理事長	荒 川 正 昭	
病院長	鈴 木 榮 一	
許可病床数	454床(内訳)一般病床／400床、感染症病床／4床、精神病床／50床 ※救命救急センター／14床、NICU／6床、GCU／6床含む	
診療科目	総合診療科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、消化器外科・一般外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科※、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、矯正歯科、歯科口腔外科、病理診断科 ※現在診療を行っておりません	
主な医療機能	地域救命救急・外傷センター 地域周産期母子医療センター	地域災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院

アクセス



電車でのアクセス

上越新幹線 浦佐駅を利用した場合
東京駅 ⇄ 浦佐駅 約1時間30分
新潟駅 ⇄ 浦佐駅 約40分
※浦佐駅から徒歩 約20分
タクシー 約5分

車でのアクセス

関越自動車道 大和スマートICを利用した場合
練馬IC ⇄ 大和スマートIC 約2時間10分
新潟西IC ⇄ 大和スマートIC 約1時間20分
※大和スマートICから車で約5分



新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。

病院に併設される新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

事務部 総務課 人事係 採用担当

〒949-7302新潟県南魚沼市浦佐4132

Tel 025-777-3200(代) Fax 025-777-2811

魚沼基幹病院 検索 uonuma-kan-hospital.jp/

facebook.com/UonumaKikanHospital

twitter.com/UonumaKikanHosp



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

薬剤師募集案内



魚沼地域
医療の輪
地域文化でつとめる病院

最適な薬物治療と

安全性を確保し、

専門性を生かして

チーム医療を支える病院薬剤師。

薬 剤 師
職 員 募 集



先輩の声



2018 年新卒採用
種村 瞭
出身地：新潟市

薬剤部見学会での職場の雰囲気
が素晴らしかったことが決め手で魚沼基幹病院を選びました。薬剤部の方針としてマルチに活躍できるように部門の配属を固定しない体制に魅力を感じました。病棟薬剤業務では、問題解決に向け医療スタッフと話し合い、適切な薬物治療の選択に貢献できることに楽しさを感じています。他に、調剤やTDMの実施、抗がん剤のレジメンチェックまで幅広く経験し、日々の成長を実感できる職場です。

休日は、温泉などの気になる観光地に出かけています。南魚沼は自然豊かな地域で、その風景に日頃の疲れが癒されます。冬はスキー場が近いので、友人と一緒によくスノーボードをしています。



2015年新卒採用
五十嵐 詠美
出身地：三条市

私が魚沼基幹病院を選んだのは、高度医療や三次救急に携わる病院薬剤師になりたかったからです。現在、多職種と連携したチーム医療に参画しており、様々な課題解決にやりがいを感じています。当院は医師や看護師との距離が近いことが楽しいです。業務が固定されていないため内服、注射、抗がん剤調製、レジメンチェック、病棟業務、外来の抗がん剤説明等の業務を日々こなしていることが、自身のスキルアップにつながっていると感じます。休日はドライブや有給休暇、夏季休暇を利用して長期旅行へ行きます。冬は業務終了後に近くのスキー場でスノーボードを楽しんでいます。関東へのアクセスが良いため、学会の参加や、遊びに行きやすいことも魅力のひとつです。



の情報提供を行うことで適正な薬物療法の発展に寄与し、診療支援を行います。医薬品情報の提供は電子カルテの薬剤部ページを効率的に利用し、リアルタイムな情報配信をしています。

注射・薬品管理部門



注射薬の供給は、オーダー情報に基づき、注射薬自動払出装置を利用した正確性、効率性の高い作業により、個人ごとにセットします。また、薬品管理業務として、病院で使用される薬の購入管理・在庫管理を物流システムを利用して行い、業務の効率化に寄与しています。

薬剤管理指導部門



入院患者さんの薬物治療管理に積極的に関わっています。電子カルテから薬歴や、検査値などをチェックし、薬の効果や副作用などを確認します。医師、看護師と情報を共有しながら最適な薬物治療が提供されるよう、支援しています。

賞与

年2回(年4.30月程度) 令和3年度実績

勤務時間

始業8時30分、終業17時15分、休憩60分

(週38時間45分、1日7時間45分)

※ 週休日：日曜日及び土曜日

※ 休日：国民の祝日、年末年始(12/29～1/3)

休暇

年次有給休暇は、初年度(4月採用)に15日付与、翌年は1月1日に20日付与。

※ ただし、20日を超えない範囲の残日数を翌年に繰越し。そのほか、夏季休暇(5日)、家族看護休暇、介護休暇、結婚休暇などがあります。

子育て支援

産前休暇／産前8週間

産後休暇／産後8週間

育児休業／子が3歳になるまでの期間

家族看護・子育て休暇／8日(年)

院内保育所「魚沼めぐみ」を設置しています。

部門紹介

調剤部門



電子カルテと連動した調剤監査支援システムにより、薬の重複や相互作用などをチェックします。薬の量、使用方法などを確認し、疑問がある場合は医師に確認を行います。肝機能や腎機能など検査データに基づく副作用チェックが迅速に行えるしくみを作り、正確な調剤を行うため、画像監査装置を導入し、システムによる確認ができるように機器整備しています。

製剤部門



製剤室では、高カロリー輸液や注射用抗がん剤の無菌調製や市販されていない薬で治療上の必要性から医師の処方に応じて院内製剤の調製を行っています。さらに高カロリー輸液や注射用抗がん剤の無菌的な混合調製を安全に行うため、注射用混注監査システムを導入し、確実にチェックを行い、安心・安全な治療に貢献しています。

医薬品情報管理部門

医薬品や治験等に関する様々な情報の収集や医師、看護師、その他の医療従事者や患者さんへ

待遇

選考について

募集期間：当院HPにて受験をご案内します。

受験資格：薬剤師免許取得者または採用までに取得見込みである者。

給料(初任給は、学歴や職歴に応じ、決定されます。)

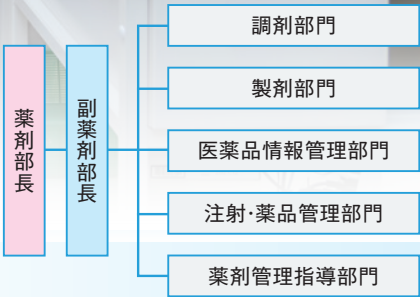
薬科系大学(6年制)を卒業後、直ちに採用された場合[24歳]	薬科系大学(6年制)を卒業後、5年間の実務経験を経て、採用された場合[29歳]
月額 235,700 円	月額 267,800 円

※ 居住する借家等の家賃の支払額に応じて住居手当を支給(上限27,000円)

※ 通勤距離、通勤方法及び通勤回数に応じて通勤手当を支給

※ 要件に応じて宿日手当、時間外勤務手当、休日給、寒冷地手当等を支給

部門体制



教育・研修

新人薬剤師の教育、各種認定など個々のスキルアップを支援しています。

	全体研修
4・5月	・医療安全研修 ・感染防止研修
6・7月	・BLS 研修
8・9月	
10・11月	・医療安全研修 ・感染防止研修
12・1月	
2・3月	
各種勉強会(随時)	

	新人研修
基礎研修	集合研修(新採用研修・院外新人研修・各種勉強会、学会など)
OJT	OJTによる指導(6月頃から日直補助、7月頃から日直・当直スタート)
成長確認	月毎にチェックリストで振り返り

部門方針

- チーム医療に参画し、患者さんの治療に貢献します。
- 医療安全を意識したシステムや体制作りに常に取り組みます。
- 全職員がいきいきと仕事に取り組み、達成感をもてるような業務構築をします。
- 医療チームの一員として薬物療法に参画するための能力と適正を備えた薬剤師を養成します。
- 専門薬剤師の養成を視野に入れ、指導的役割を果たせる人材を育成します。

薬剤のジェネラリストからスペシャリストへ、多職種との連携を深め、最善の薬物治療を提供。

近年、医療の高度化、多様化に伴い、病院薬剤師を取り巻く状況は大きく変化し、薬剤師の求められている役割も多様化しています。2010年には厚生労働省から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の医政局長通知が出され、その中でチーム医療の中での薬剤師の役割が明確に打ち出されました。魚沼基幹病院薬剤部では、チーム医療の推進の中で良質な薬物療法の提供と医療の安全確保に貢献するという基本方針の下、医師、看護師等の他の医療スタッフとの連携の中で果たすべき役割を意識しながら業務を進めています。病棟での薬剤業務は、調剤や注射薬管理部門等の薬剤部基本業務との併任で担当しています。患者さんへの服薬指導、薬剤の種類、

投与量、投与方法、持参薬チェックなど可能な限り関わるようにしています。がん化学療法では、レジメン監査、副作用モニタリングや対策立案と処方提案など、安心安全な薬物治療に貢献しています。薬剤部基本業務では安全面を重視したさまざまな監査システム、自動払い出し装置を導入しており、その効果を発揮しています。薬剤部では、最善の薬物治療を提供するために、研鑽を重ねています。日々の業務に着目し、エビデンスを集積することで、臨床研究に繋げ、学会発表にも積極的に参加しています。薬剤のジェネラリスト、さらにはスペシャリストとして幅広い知識を習得した信頼される薬剤師を目指しています。